SUNTORY HALL
Magazine

サントリーホール情報誌
April 2020
Vol.11

SUNTORY HALL

Hibiki

特集●

ブルーローズで
もっと音楽に近づく

インタビュー● 俳優・歌手 **高橋克典**

2020年6月～のコンサート案内

特集

ブルーローズで もっと 音楽に近づく

「ブルーローズ」という名前の
愛らしいホールをご存知ですか？
温かみのある穏やかな空間。
壮大な響きの大ホールとはまた別の
親密な音楽を体験できる場所。
どんな演奏を楽しめるのでしょう？
なぜ、青いバラと名付けられたのでしょうか？
「サントリーホール ブルーローズ（小ホール）」へ
ご案内します。

演奏家と聴衆が、音楽でひとつになれる場所。「この音楽に参加している」と感じられる親密さがあります。上は、壁に咲く青いバラの彫刻。

撮影・桑田瑞穂

親密な響き 挑戦の舞台

アーク・カラヤン広場からサントリーホールのエントランスを入ってすぐ左手、二重扉の向こうにその空間は広がっています。ステージ前までフラットに続く床は、職人技の寄木細工。鮮やかなワインレッド地にバラのアーチ文様が織り込まれた、瀟洒（しょうしゃ）な布張りの椅子が３８０余り。用途によって並び方を変えられる可動式の客席です。ステージとの近さに驚くかもしれません。前列は演奏者と目が合いそうな距離感です。ウッディーな内装、天井には上品なスワロフスキーのシャンデリアが格子状に16も並び、華やかなサロンの雰囲気を醸し出しています。

「ブルーローズ」の名は、サントリーが挑戦した青いバラの開発に由縁しています。自然界には存在しないＢｌｕｅＲｏｓｅは夢の花、英語では〝不可能〟の代名詞ともされていましたが、長年のバイオ技術による研究で、２００４年ついにこの世に青いバラが誕生しました。そこで、「不可能を可能にする、新たな挑戦の舞台。奇跡のような出会いと感動が生まれ、花開く場所に」との思いを託して、小ホールが新たに「ブルーローズ」と名付けられたのです。

扉を入る前に、右手の壁を見上げてみてください。可憐に咲く青いバラを見つけられるでしょうか？　まるで生花のような、美術家・須田悦弘による木の彫刻です。花びらも葉っぱも一枚一枚精巧に木を削り、色を付けて緻密につなぎ合わせ、生き生きと再現されたバラからは、甘い香りが漂ってきそうです。

室内楽の庭

「ブルーローズ」では主に、リサイタルや室内楽の演奏会が催されます。室内楽とはもともと、ヨーロッパの宮廷で演奏されたサロン音楽です。モーツァルトやベートーヴェンがフリーの音楽家として活躍した18世紀後半頃からは、貴族の邸（やしき）に愛好家たちが集って音楽家が奏でる時流の曲を聴き、時に自分たちも演奏を楽しんだ社交の場が、サロンでした。

弦楽四重奏や五重奏、弦楽器とピアノ、木管や金管楽器など色々な楽器の組み合わせで二重奏から十重奏ぐらいまで、様々なスタイルの室内楽曲が作曲され、演奏され、今に伝えられてきました。

「室内楽はとてもパーソナルで人間味にあふれた音楽。生きている歓びを感じられます」

と、サントリーホール館長で世界的なチェリストの堤剛は言います。だからこそ、音楽の原点とも言える室内楽の面白さや奥深さを、もっと多くの方々に味わっていただきたい。そして、未来に向かう風を吹かせたい……そんな想いから、21世紀のサロンたる「ブルーローズ」で、室内楽の祭典『チェンバーミュージック・ガーデン（CMG）』が生まれました。２週間以上に及ぶ室内楽フェスティバルは日本で先駆け。今年で10回目を数え、初夏の風物詩になっています。

チェンバーミュージック・ガーデン（CMG）の公演詳細は 12 ～ 13 ページへ。

※最新の公演情報については、サントリーホールホームページをご覧ください。

演奏家に近づく

2020年の『チェンバーミュージック・ガーデン』は6月6日から21日まで、総勢69名の演奏家たちにより23の演奏会が行われます。結成20周年を迎えるロシアのカルテット、国際コンクール優勝後ますます磨きのかかる新星ピアノ・トリオ、CMG定番の至極のデュオなど、長年信頼を寄せ合うメンバーでの演奏もあれば、注目のソリストが集う一度限りの特別なアンサンブルもあります。世界的に名高いドイツの**クロンベルク・アカデミー**から指導者陣と現役生・修了生が初来日する公演も聴き逃せません。ヴァイオリン、チェロ、ヴィオラ、コントラバス、ピアノ、フォルテピアノ、ハープ、ギター、フルート、クラリネットなど、楽器の種類や年代も様々。「ブルーローズ」は、色とりどりの室内楽が咲き乱れる〝庭〟になります。

その〝庭〟は、中央のステージを客席が180度ぐるりと囲む扇型の特別な配置。どこに座って聴いても、演奏者をぐっと近くに感じることができます。

「部屋全体で楽しめて、空気が一体化する、それがブルーローズの魅力だと思います。響きが自然に回って、とても心地よく弾けますし、客席で聴いていても音の距離をまったく感じません」

と言うのは、いま最も注目される若きチェリストのひとり、**佐藤晴真**。普段はソリストとしての活動が主で、CMGには初登場。初顔合わせとなるふたつのアンサンブルに参加します。

「室内楽は1対1で音楽をぶつけあえて、きちんと対話ができます。共演者によって演奏が変わる、その化学反応が楽しい。ドキドキします。半円形状に向かい合って弾くので、関係性もより深く親密です。そして、客席も含めた部屋全体の空気感や熱量を感じながら音楽をつくりあげていくのが、室内楽なのだと思います」

そう話す声は低音で、チェロの音域と自身の声域がぴたりとシンクロするのだそうです。だからこそ、自分にとって最も親近感のわく楽器なのだと言います。

奏者と楽器の一体感を間近で体験できるのも、「ブルーローズ」のCMGならでは。ステージを真横から見るサイドビュー席は、弦楽器奏者が激しく前後に揺れながら弾いたり、ハープ奏者が足で素早くペダルを踏みかえる様子など、知らなかった演奏風景にも出会えます。

© ヒダキトモコ

昨年、ミュンヘン国際音楽コンクールチェロ部門で日本人史上初の第1位に輝いた佐藤晴真。CMGでは**プレシャス1pm Vol.2 ピアノ四重奏の魅力**（6月12日）、**アジアンサンプル@TOKYO**（16日）ほかに登場。

作曲家に近づく

奏者の表情や仕草からも、作品に込められた感情、作曲家に対するリスペクトが伝わってきます。何百年前に作曲家が頭の中に描いた世界が、それぞれの演奏家にトレースされ、ハーモニーとなって「ブルーローズ」に現れるのです。

今年はベートーヴェン生誕250周年。CMGでは**3つの全曲演奏会**が行われます。ベートーヴェンが生涯に作曲したチェロ・ソナタ（5曲）、弦楽四重奏曲（16曲）、ピアノ三重奏曲（9曲*）を聴くことができる、滅多にない機会です。（*作品番号付きのすべての作品）

CMG恒例の**ベートーヴェン・サイクル（弦楽四重奏曲全曲演奏会）**に取り組むのは、サントリーホール室内楽アカデミー生本番さながらの練習を積む、客席に囲まれたステージ。

カリスマ的存在のアトリウム弦楽四重奏団による**ベートーヴェン・サイクル**は、6月7（昼・夜）、9、11、13、15日の全6回公演。

左は、6月6日にCMGの**オープニング**を飾る堤剛と萩原麻未。

© 桑田瑞穂

©Nikolaj Lund Photography

葵トリオのベートーヴェン

―ピアノ三重奏曲全曲演奏会

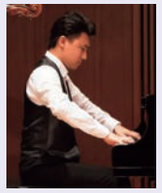
「ブルーローズ」で生まれ育った葵トリオの大きな挑戦。関西出身の3人が、ベートーヴェンに肉迫します！

ヴァイオリン
小川響子
Kyoko Ogawa

常設のトリオなので、お互いの特徴も素敵な部分も知り尽くし、信頼感は絶大です。一緒にたくさんリハーサルをするので、本番でちょっと違うことを仕掛けても大丈夫という安心感。予想外の反応が返ってきても「あ、ここはこうくるんか〜」と楽しめます。そのことで生まれる化学反応みたいなものを、お客様にも楽しんでいただけたらと思います。

ベートーヴェンは、幼い頃から「勉強しなければならない」作曲家と思っていましたが、室内楽アカデミー生だった5年前、CMGで米国のミロ・クァルテットによる弦楽四重奏曲全曲演奏会を聴き、本当に感動して涙が止まらなかったんです。そこで自分の中にベートーヴェンが深く入り、大好きな作曲家になりました。

今回、新米トリオの私たちにピアノ三重奏曲全曲演奏会の機会をいただいたことは、本当に幸せで、感謝でいっぱいです。自分たちにとっては大きすぎる挑戦ですが、今までの経験と教えていただいたことを総動員して取り組みます。



ピアノ
秋元孝介
Kosuke Akimoto

自分が勉強して育てていただいた場所で、しかもCMG10回目、ベートーヴェン250周年に、こんな大きな企画に挑戦させていただくからには、修了生として後輩たちをがっかりさせないよう……本当にたくさんのことを教えてもらったので、少しでも成長した演奏をできたらと思います。ピアニストは基本孤独な作業なのですが、室内楽アカデミーでの2年間で一気に視野が広がりました。

我々がトリオを組んで一番最初に取り組んだ曲が、ベートーヴェンのピアノ三重奏曲第6番。そしてベートーヴェン自身が作品1（Op. 1）として最初に世に出したのがピアノ三重奏曲第1〜3番、つまり真正面から作曲に取り組み、自信を持って出版したジャンルなのだと思います。我々にとっても真剣勝負のレパートリーです。

アンサンブルをより緻密につくりあげていく面白さ。ソリストの集まりではなく、常に3人で磨き上げてきたピアノ・トリオだからこそ出来る室内楽を、お聴かせできればと思います。

チェロ
伊東 裕
Yu Ito

チェリストにとってはまず、ベートーヴェンと言えばチェロ・ソナタ、バイブルと言われるほどすごい存在感です。とくに後期の作品は愛に溢れていて、全人類愛のようなものを感じます。ピアノ三重奏曲も、初期の作品では、チェロはピアノの左手と一緒に動くバスの役割ですが、作品番号が増すにつれ各パートの独立性が強く出てきます。それぞれの音色が混ざり合ってとても室内楽的であり、かつ、ソリスティックな楽章も。常設トリオだからこその音楽性の合い方、同じ方向性、和音が鳴った時の響きの違いを、伝えられたらと思います。

僕たち自身、アカデミーを経た後にCMGでフランスのピアノ・トリオ、トリオ・ヴァンダラーの演奏に触れて感銘を受けました。トリオの可能性が見えたというか。いま3人それぞれヨーロッパに留学していますが、トリオ・ヴァンダラーにも教えを乞いに行きました。今回の全曲演奏会の曲順や組み合わせにもアドバイスをくださって。「ブルーローズ」からのいろいろな縁を感じます。

かの間、ともに生きてみるという体験」と語る4人の5日間（6回）にわたる演奏から、どんなベートーヴェンの内面、人生ドラマが聴こえてくるでしょうか。

チェロとピアノが歌い合う**チェロ・ソナタ**5曲も、作曲の時期により作風が大きく異なります。第1、2番は天才ピアニストとして活躍した26歳の時に、第3番は作曲家として充実した〝傑作の森〟とされる時期（38歳前後）、第4、5番は全聾（ろう）となりながらも大作を生み続けた後期（45歳頃）に書かれています。ベートーヴェンが当時の名チェリストたちと出会って生まれたと言われる全作品を、CMGオープニングの一夜に、**チェロ・堤剛、ピアノ・萩原麻未**という世代を超えて信頼を寄せ合うデュオが演奏します。

そして、**ピアノ三重奏曲全曲演奏会**に挑むのは、**サントリーホール室内楽アカデミー***出身の**葵トリオ**です。ミュンヘン国際音楽コンクールピアノ三重奏部門第1位（日本人トリオ初）の栄冠を手に、世界に羽ばたく3人が、成長を重ねてきた古巣「ブルーローズ」でベートーヴェンと向き合います。

時空を超えて旅をする

「ブルーローズ」の親密な雰囲気、少しはお伝えできたでしょうか？　その場に身を置けばすぐに、魅力を感じていただけるはず。親しい友人の家に遊びに行くような気分で、映画を観に行くような気軽さで、ぜひお出かけください。

とくにCMGは、アーティストのトークも楽しめる60分公演**「プレシャス1pm」**もあれば、**「フィナーレ」**のように2時間半を超える饗宴もあり、**「ディスカバリーナイト」**はワン・ドリンク付きで大人な夜、**「ENJOY！室内楽アカデミー・フェロー演奏会」**は名曲の数々をフレッシュな演奏で全席1000円で楽しめます。古典的なクラシック音楽もあれば、現代作曲家の世界初演曲や日本初演曲もあり。うっとりするような美しさ、ストイックなまでの緊張感、疾走するテンポ、時空が伸び縮みするような変拍子、のどかな田園風景、深い夜の闇……音楽から様々な風景、センスを受け取ることができるでしょう。

「タイムスリップした感覚で、楽器の魅力と向き合います。お客様も同じように楽しんでいただければ」

と語るのは、サントリーホールが所有する1867年製のエラール・ピアノを、**「プレシャス1pm Vol.3」**で演奏するフォルテピアノ奏者の**川口成彦**。エラールは1777年にパリで開かれたピアノ工房で、ショパンやリストなど名だたる作曲家、ピアニストに愛されました。かのベートーヴェンも、「（1803年の夏に）この楽器に出会えたことで、おそ

第1回ショパン国際ピリオド楽器コンクールで第2位に輝いた川口成彦。CMGでは**プレシャス1pm Vol. 3 エラールの午后**（6月16日）で、ガット弦を張ったヴァイオリン、チェロと共に当時のスタイルでピアノ三重奏曲を聴かせてくれます。

＊**サントリーホール室内楽アカデミー**は2010年に開講、現在第5期。プロフェッショナルを目指す若手奏者を公募、2年間の研修の中でファカルティ（講師）の指導を受け、CMGなど演奏会での経験を積み、室内楽の演奏技術や感性を磨きます。『Hibiki』Vol.6特集内でアカデミーに関する記事を掲載しています。
https://www.suntory.co.jp/suntoryhall/calender/

ブルーローズの物語

温かな音楽空間の小ホール「ブルーローズ」。
ブルーローズで音楽を聴いてみたくなった方のために、
バラの花「ブルーローズ」の物語をご紹介しましょう。

バラへの憧れ

バラはクレオパトラやローマ皇帝ネロをはじめ古くから世界で最も愛されてきた花。多くの音楽家もバラの美しさに魅了されてきました。バラを冠した名曲は数多くあります。たとえばシューベルトの『野ばら』、リヒャルト・シュトラウスのオペラ『薔薇の騎士』、ヨハン・シュトラウス２世の『南国のばら』……メロディが美しい、作曲家たちのバラに託した「憧れ」を感じる曲です。

現在栽培されているバラのほとんどは、アジアやヨーロッパの野生種のバラ8種程度を交配することにより生まれたものです。青いバラへの憧れも強く、創ろうという努力もされてきましたが、多くの青い花に含まれる青色色素（デルフィニジン）を作る能力がバラにはないため、交配では実現しませんでした。

不可能への挑戦

青いバラを創る――そんな不可能への挑戦が始まったのは、1990年のこと。サントリーはオーストラリアのベンチャー企業フロリジン社と共同で、この一大プロジェクトをスタート。研究チームは、まず、青色色素を作るために必要な遺伝子（青色遺伝子）を濃い紫色のペチュニアから取りました。ところが、その遺伝子を入れた花が咲いてみると、花は赤いままで青色色素は検出されないという結果に。一足先に1995年青色カーネーションに成功し、これに勇気づけられ、研究は続きました。

2004年、青いバラ開発成功

長い紆余曲折を経て、バラから誘導した細胞の塊に青色遺伝子を入れ、再びバラに戻す作業をひたすら続けた結果、1998年頃から青みを帯びたバラが咲き始めました。さらに遺伝子導入を継続し、ついに2004年に青いバラ開発成功を発表し、大きな反響を呼びました。この青いバラは「SUNTORY blue rose APPLAUSE」と名付けられました。アプローズとは「喝采」という意味です。

しかし、自然界にはもっと青い花はたくさんあります。「もっと青いバラ」を目指すサントリーの挑戦は今日も続いています。

※サントリーホールのホワイエにあるショップでは、タオルやノートなど「ブルーローズ」にちなんだオリジナルグッズを販売しています。

Before & After Concert

日比谷花壇
ANAインターコンチネンタルホテル東京店

サントリーホールに隣接するANAインターコンチネンタルホテル東京の2階にある日比谷花壇では、貴重な青いバラをご購入いただけます。エレガントな店内は癒しの空間。コンサートの出演者への贈り物として、コンサートの来場を記念してご自身のために、また、大切なお連れさまにプレゼントされてはいかがでしょうか。

カラヤン広場からホテルに入って、すぐ右手。シックな店内にブルーローズが似合います。

住所：東京都港区赤坂1-12-33
ANAインターコンチネンタルホテル東京2F
TEL：03-3583-1187
営業時間詳細はお電話でお問い合わせ下さい

らくそれまで頭の中にしかなかった想像上の音響をやっと現実に鳴らすことができた」（野平一郎著『作曲家から見たピアノ進化論』より抜粋）とされるほど、革新的なピアノを生み出したメーカーなのです。1台1台手作りで、工房や時代によってもまったく異なる個性を持つこの時代のピアノは、現代のモダンピアノに対し、フォルテピアノと呼ばれます。「楽器との一期一会、いろいろな人と知り合うように毎回違う楽しみがあります。このエラールは音域ごとに個性があり、高音部はきらびやかで低音部は重厚、中音部は滑らかで柔らか。音色から様々なイメージがもらえそうです。ヴァイオリンやチェロと木のぬくもりで相性良く調和し、より親密な音色になると思います。

音楽は抽象的だからこそ、具体的な視覚よりイマジネーションが働くと思うんです。違う世界観を生み出せるし、脳という媒介を通してタイムマシーンにもなり得る。古楽器の音色で19世紀に行けるんです。それがすごく面白い」と川口さん。リストやショパンも当時、「ブルーローズ」のような小さなサロンで演奏していたことでしょう。エラールの音色に誘われ、19世紀の旅へご一緒に！

1867年製のエラール・ピアノ。

もうひとつの物語

「ブルーローズ」では日々、人と人が出会い、様々なドラマが生まれています。

車椅子の方もごく自然に入れるフラットで段差のない床、すぐ目の前で演奏を聴けるという空間特性を生かし、特別支援学校に通う車椅子の生徒さんを招いた演奏会を毎年開いています（**CMGスペシャル チャレンジド・チルドレンのための室内楽演奏会**）。コンサートホールでクラシック音楽を聴くという初めての体験に、興奮しながらも驚くほどの集中力で聴き入る彼ら。最大50名程度の車椅子利用者の方が集まるため、ホールもスタッフ総動員でお迎えします。いい演奏に対してとても敏感に反応するたくさんの笑顔に、演奏家も父兄も関係者も全員、忘れられない大切な1日となります。

室内楽アカデミー生にとっても、本拠地である「ブルーローズ」はたくさんの出会いの場。世界の第一線で活躍する演奏家と共演したり、マスタークラスで直接指導を受ける機会もあり、プロフェッショナルな音楽家としての心構えや、湧き出るオーラを間近で感じることができるのです。生涯の糧となる出会いです。やがて彼らの中からも、世界で活躍する音楽家が育っていくことでしょう。

「ブルーローズ」での出会いが大きな輪となって繋がっていき、ひとりひとりの心の中で音楽が鳴り響きますように。

今年2月に「ブルーローズ」で行われた、世界的ヴァイオリニストのアンネ=ゾフィー・ムターによる「公開マスタークラス with サントリーホール室内楽アカデミー」の様子。

Hibiki Special Interview

Katsunori Takahashi

高橋克典（俳優・歌手）

クラシック音楽へのアプローチ

NHKの音楽番組「ららら♪クラシック」の司会は4年目を迎え、番組と連携したコンサートでサントリーホールのステージにも出演。6月10日には、『日本フィル&サントリーホール とっておき アフタヌーン』の大ホールに登場されます。

きっちりと筋肉のついたスマートな体格、低く落ち着いた温もりのある声。役者としてはもちろん、気さくな人柄を感じさせる司会者としても人気の、高橋克典さん。

「今朝、スポーツジムのロッカールームで流れていたクラシック音楽が、やけに耳に入ってきて。最近そんなふうに、いいなあと感じる瞬間ができたんです。だんだんクラシックに慣れてきたんでしょうね」

ずっと、ロック少年だったそう。

「小学3年生の時に、当時人気だったキッスやクイーンといったロックバンドにハマって、学校帰りに友だちの家に寄ってはレコードを聴いていました。中学生になるとバンドを組んで。それから、いろいろなジャンルを聴くようになりました。僕らの世代は、様々な質の音楽を聴けましたからね」

実は芸能界へも、最初は歌手としてデビュー。俳優として活躍するようになってからも、ライブや録音など音楽活動を続け、今も毎年バースデー・ライブを開いて歌声を披露しています。

「最近はしっとりした歌を歌いたいと思って。40歳過ぎてからはジャズの崩した感じが気持ち良くて、好きですね」

クラシック音楽との距離感

物心ついて初めて聴いた音楽は？と聞いてみると、

「おそらくクラシックでしょう。両親ともに音楽家だったので、家にレコードはたくさんありましたし、自然にクラシック音楽が流れていました。母は声楽家。父は音大で作曲を学んで高校の音楽教師になった人で、音楽部の生徒を指揮して「第九」演奏会を大きなホールで開いたり、横浜で市民オーケストラを立ち上げたり。ですから僕も、小さい頃からよくコンサートに連れて行かれました。それで退屈に思ってしまったんですね。ロックが好きになってからはとくに、長尺で深遠な音楽は耐えられなくて（笑）。なんだかお高くとまっている雰囲気も好きではなかった。だからクラシック音楽のことは最初から穿って見ていたんです」

そんな経験が、今の音楽番組の司会に活かされていると言います。

「偉大な作曲家も、だらしなかったり、女性に弱かったり、ダメなエピソードも多いんですよね。そういうのを聞くとホッとするし、興味をそそられ、クラシック音楽に近づきやすくなる。ああ、人間らしい感性なんだなと。そんな番組のアプローチがすごく面白くて。僕は常にビギナーのスタンスで、『なんか気どってる〜』とか『ショパンって白いフリフリの服を着てそう』とか、なるべく率直な感想を口に出すようにしています（笑）」

生の音の魅力

子どもの頃にピアノを習っていたという高橋さん、これから弾いてみたい楽器はありますか？

「チェロがすごく好きなんです。音も存在も。だから一度番組の中で習って弾いたんですけれど……自分の音に耐えられなかったです。たぶん僕、耳だけはいいので。好きな演奏のイメージがあるからこそ、ダメでしたね。

指揮はやってみたいです。ドラマで指揮者の役を演じたことがあって。指導していただき結構練習したのだけれど、やっぱりオーケストラがぐちゃぐちゃになっちゃうんですよ。一回だけうまくいった。僕が振った通りに音は鳴るし、反応が返ってくる。すごく気持ちよかったです。楽器って全部指揮者を向いているでしょ。ここが最高の場所なんだなって思いました」

プライベートでサントリーホールにいらっしゃることも多いそうです。

「生の音を、その場で目の前で聴くというのが、すごくいい。うまいなあと思う指揮者は、ホール全体を盛り上げ、何かをつくっていくでしょ。熱玉みたいなものを。巻き込まれますよね」

と優しい笑顔で語りながら、

「でも、いい演奏ってなんなんでしょうね？」

と逆に問われました。

6月、大ホールのステージ上で、演奏家とどんな会話をされるのか、ますます楽しみです。

高橋克典（たかはし かつのり）　神奈川県横浜市生まれ。1993年『抱きしめたい』で歌手デビュー。その後、俳優として活躍。代表作に主演ドラマ『サラリーマン金太郎』『特命係長只野仁』『庶務行員多加賀主水』など。他の作品でも多彩な演技でストーリーを支え、幅広いファン層に支持されている。2020年大河ドラマ『麒麟がくる』に織田信秀役として出演。17年4月よりEテレ『ららら♪クラシック』のMCを務めている。

5月9日（土）「ららら♪クラシックコンサート Vol. 8」
6月10日（水）「日本フィル&サントリーホール とっておき アフタヌーン Vol. 13」
2021年2月3日（水）「同 とっておき アフタヌーン Vol. 15」のナビゲーターとして、高橋克典さんが大ホールのステージに立ちます。

撮影・松井康一郎　スタイリング・小川カズ　ヘアメイク・飯面裕士（HAPP'S.）

Concert Information

コンサート案内

2020年6月～

世界を舞台に飛躍する若き才能たちも迎え、
ベートーヴェン生誕250周年を記念した
3つの全曲演奏会をはじめ、世代や国境を超えた
様々な楽器の気鋭アーティストがアンサンブルに挑みます。

10年目を迎える初夏の恒例、室内楽の祭典

サントリーホール チェンバーミュージック・ガーデン 2020

チェンバーミュージック・ガーデン（CMG）特設サイトでは出演アーティストのメッセージ動画やインタビュー、公演情報などを随時更新しています。

6月6日(土)～6月21日(日) ブルーローズ(小ホール)

6月6日(土)

オープニング 売切
堤 剛プロデュース 2020 17:00開演

ベートーヴェン生誕250周年と
CMG10回目を迎える2020年の
オープニングは、堤剛と萩原麻未が
「ベートーヴェン：チェロ・ソナタ」
全5曲を一晩で演奏する特別企画

6月7日(日)

アトリウム弦楽四重奏団 ベートーヴェン・サイクル
Ⅰ 13:00開演 残席僅少
Ⅱ 19:00開演

音楽史に燦然と輝く傑作、
ベートーヴェンの弦楽四重奏曲
全16曲を、6回にわたり
演奏するCMGの名物企画

6月9日(火)

CMGスペシャル
チャレンジド・チルドレンのための室内楽演奏会
(関係者招待)

アトリウム弦楽四重奏団 ベートーヴェン・サイクル Ⅲ 19:00開演

6月10日(水)

葵トリオのベートーヴェン
―ピアノ三重奏曲全曲演奏会 Ⅰ 19:00開演

ミュンヘン国際音楽コンクールの
ピアノ三重奏部門で日本人初の
圧倒的な第1位を獲得した
葵トリオによる全曲演奏会

6月11日(木)

プレシャス 1pm Vol. 1 Featured Concerts 残席僅少 13:00開演

アトリウム弦楽四重奏団 ベートーヴェン・サイクル Ⅳ 19:00開演

6月12日(金)

プレシャス 1pm Vol. 2 Featured Concerts 13:00開演

ディスカバリーナイト Ⅰ Featured Concerts 19:30開演

6月13日(土)

ENJOY!
室内楽アカデミー・フェロー演奏会 Ⅰ 11:00開演

アトリウム弦楽四重奏団 ベートーヴェン・サイクル Ⅴ 19:00開演

6月14日(日)

葵トリオのベートーヴェン
―ピアノ三重奏曲全曲演奏会 Ⅱ 残席僅少 14:00開演

6月15日(月)

アトリウム弦楽四重奏団 ベートーヴェン・サイクル Ⅵ 19:00開演

6月16日(火)

プレシャス 1pm Vol. 3 Featured Concerts 13:00開演

アジアンサンブル @TOKYO 19:00開演

6月17日(水)

ディスカバリーナイト Ⅱ Featured Concerts 19:30開演

6月18日(木)

葵トリオのベートーヴェン
―ピアノ三重奏曲全曲演奏会 Ⅲ 残席僅少 19:00開演

6月19日(金)

プレシャス 1pm Vol. 4 Featured Concerts 13:00開演

クロンベルク・アカデミー 日本ツアー Ⅰ 19:00開演

6月20日(土)

ENJOY!
室内楽アカデミー・フェロー演奏会 Ⅱ 11:00開演

クロンベルク・アカデミー 日本ツアー Ⅱ 19:00開演

6月21日(日)

フィナーレ 2020 14:00開演

CMG2020を
煌びやかに彩ってきた
アーティストたちが大集合 残席僅少

Featured Concerts 1

ディスカバリーナイト Ⅰ・Ⅱ

平日の19：30から、クラシックの名曲と秘蔵の作品を織り交ぜたプログラムを、
ライブならではのトークを交えてお届けします。ワン・ドリンクが含まれ、
ナイトカルチャーを落ち着いて楽しみたい方にお薦めです。

工藤重典 ©土居政則

大萩康司 ©SHIMON SEKIYA

辻 彩奈 ©Warner Classics

田原綾子 ©Hisashi Morifuji

横坂 源

Ⅰ 6月12日(金) 19:30開演(19:00開場)

ベートーヴェン 弦楽三重奏のためのセレナード ニ長調 作品8 より
ヴィラ=ロボス『ブラジル風バッハ』 第5番
権代敦彦『Post Festum』 作品172 ソロ・ヴァイオリンのための **[全曲世界初演]**
ラヴェル『ハバネラ形式の小品』 **モーツァルト** フルート四重奏曲第1番 ニ長調 K. 285 **ほか**
フルート：工藤重典　ギター：大萩康司　ヴァイオリン：辻 彩奈　ヴィオラ：田原綾子　チェロ：横坂 源

吉田 誠 ©Aurélien Tranchet

福間洸太朗 ©T.Shimmura

Ⅱ 6月17日(水) 19:30開演(19:00開場)

ヴィトマン『夜の小品』 **フォーレ** ピアノ三重奏曲 ニ短調 作品120
ブラームス クラリネット三重奏曲 イ短調 作品114
藤倉 大『Hop』 クラリネット、チェロとピアノのための **[日本初演 サントリーホール、ラジオ・フランス、アレイミュージックによる共同委嘱]** **ほか**
クラリネット：吉田 誠　チェロ：横坂 源　ピアノ：福間洸太朗

【チケット料金】 **指定** 4,000円　**サイドビュー** 2,500円　**ペア** 7,000円（同一公演の指定席2枚）※ワン・ドリンク付き

Featured Concerts 2

プレシャス 1pm Vol. 1～4

気軽に楽しめる平日お昼間の60分コンサート。エラール製のピアノやハープなど
多彩な楽器の組み合わせが魅力的で、トークを交えながら心沸き立つ
レパートリーを披露します。ほっと一息くつろげる至福のひとときです。

Vol. 1 6月11日(木) 13:00～14:00 親密な至極のデュオ

ブラームス チェロ・ソナタ第1番 ホ短調 作品38
ブラームス チェロ・ソナタ第2番 ヘ長調 作品99
ピアノ：小山実稚恵　チェロ：堤 剛

小山実稚恵 ©ND CHOW

Vol. 2 6月12日(金) 13:00～14:00 ピアノ四重奏の魅力

ベートーヴェン ピアノ四重奏曲 変ホ長調 作品16 より 第3楽章
シューベルト 弦楽三重奏曲 変ロ長調 D. 471
シューマン ピアノ四重奏曲 変ホ長調 作品47 より 第2・3楽章
ブラームス ピアノ四重奏曲第1番 ト短調 作品25 より 第4楽章　**ほか**
ヴァイオリン：渡辺玲子　ヴィオラ：戸原 直(室内楽アカデミー修了)
チェロ：佐藤晴真　ピアノ：江口 玲

渡辺玲子 ©Yuji Hori

佐藤晴真 ©ヒダキトモコ

Vol. 3 6月16日(火) 13:00～14:00 エラールの午后

ショパン ピアノ三重奏曲 ト短調 作品8 より 第1楽章
サン=サーンス『動物の謝肉祭』 より「白鳥」
ドビュッシー ピアノ三重奏曲 ト長調　**ほか**
ピアノ：川口成彦　ヴァイオリン：原田 陽　チェロ：新倉 瞳

川口成彦 ©Juan José Molero Ramos

Vol. 4 6月19日(金) 13:00～14:00 吉野直子と異郷の仲間たち

ピアソラ(ヴェフマネン 編曲)『タンゴの歴史』 より 第1・2楽章
フランセ フルート、弦楽三重奏とハープのための五重奏曲第2番　**ほか**
ハープ：吉野直子　フルート：セバスチャン・ジャコー
ヴァイオリン：アントン・イリューニン※　ヴィオラ：ドミトリー・ピツルコ※
チェロ：アンナ・ゴレロヴァ※　※アトリウム弦楽四重奏団メンバー

吉野直子 ©Akira Muto

【チケット料金】 **指定** 2,500円　**サイドビュー** 1,500円　**ペア** 4,000円（同一公演の指定席2枚）

若き声楽家たちの瑞々しい音楽を

サントリーホール
オペラ・アカデミーコンサート

「サントリーホール オペラ・アカデミー」は、元世界的テノール歌手で指揮者・声楽指導者のジュゼッペ・サッバティーニをエグゼクティブ・ファカルティに迎え、基礎を学ぶ「プリマヴェーラ・コース」と、深い表現・解釈を学ぶ「アドバンスト・コース」の2コースを設けています。世界的な指揮者やコレペティトゥア、歌手によるレッスンを受けるのみならず、アカデミーのメンバー同士が互いのよき「耳」となり、歌を聴いて意見を述べることで啓発しあい、研鑽を積んでいます。サッバティーニの薫陶を受けた若き音楽家たちが、1年目の研鑽の成果としてイタリア古典歌曲とオペラ・アリアを披露します。

2019年公演より

6月2日（火）　19:00開演（18:20開場） ブルーローズ（小ホール）

プリマヴェーラ・コース第5期生
ソプラノ：嵐田美穂、岡 莉々香、久津見れい、萩野久美子、深澤優希、三戸はるな
テノール：石井基幾、頓所里樹
ピアノ：横山 希
アドバンスト・コース第4期生
ソプラノ：木和田絢香、小寺彩音
ピアノ：古藤田みゆき（コーチング・ファカルティ）
※曲目詳細は直前に発表予定です。

【チケット料金】**自由席** 2,000円

このマークのついた公演は、未来を担うこどもたちや若きプロフェッショナルな音楽家たちに向けたサントリーホールの活動「ENJOY! MUSICプログラム」の一環として開催します。音楽に出会うよろこびの場、音楽を創るよろこびの場、そして、より開かれたホールをめざし、様々な取り組みを行っています。

こどもたちに贈る世界最大級の本格的なクラシック音楽の祭典

こども音楽フェスティバル

こども向けコンサートで多数の実績を持つソニー音楽財団とサントリー芸術財団がタッグを組んでこどもたちに贈る、世界最大級の本格的なクラシック音楽の祭典。こどもの年齢に合わせ、趣向を凝らしてプログラミングされたコンサートなどが目白押しのフェスティバルです。

7月17日（金）～21日（火）　大ホール　ブルーローズ（小ホール）　および　アーク・カラヤン広場等　周辺施設

オープニング・コンサート　対象：4才～
0才まえのコンサート　対象：妊婦さんとおなかの赤ちゃん
Concert for KIDS　対象：0才～
こどものための オルガン プロムナード　対象：0才～
いろいろドレドレ　対象：3才～6才
10代のためのプレミアム・コンサート
対象：小学1年生～
はじめてのオペラ『ヘンゼルとグレーテル』
対象：小学1年生～
クロージング・コンサート
対象：小学1年生～　**ほか**

詳細は「こども音楽フェスティバル」公式WEBサイトをご覧ください。
www.kofes.jp

いろいろドレドレ

10代のためのプレミアム・コンサート　©上野隆文

Concert Information
コンサート案内
2020年6月～

オーケストラとホールが贈る、エレガントな平日の午後

日本フィル&サントリーホール
とっておき アフタヌーン 2020～21シーズン　Vol.13～15

クラシック音楽のコンサートを通して、平日の午後を優雅で豊かに過ごすライフスタイルを提案するシリーズ。今後の活躍が期待される注目の指揮者が公演ごとに登場し、巧みなタクトで引き出される豊穣なオーケストラ・サウンドをトーク付きでお楽しみいただきます。ナビゲーターとしてNHKのクラシック番組でお馴染みの俳優・高橋克典（Vol. 13、15）が登場。親しみやすく、奥深いクラシック音楽の世界をご案内します。お得なセット券や3名以上のグループ割引のほか、コンサートの前後にThe Okura Tokyoで限定スイーツの特別販売や、ANAインターコンチネンタルホテル東京でランチやティータイムを特別優待価格でご利用いただけるサービス、コンサート前のリハーサル体験（事前申込制、無料）も。託児サービス（事前申込制、有料）もご利用いただけます。

管弦楽：日本フィルハーモニー交響楽団

6月10日（水）　14:00開演（13:20開場）　大ホール

Vol. 13　覇者たちの「今」を聴く
指揮：沖澤のどか　チェロ：佐藤晴真　ナビゲーター：高橋克典
ドヴォルジャーク チェロ協奏曲 ロ短調 作品104
ブラームス 交響曲第2番 ニ長調 作品73

沖澤のどか　©Taira Nishimaki

佐藤晴真　©ヒダキトモコ

高橋克典

10月5日（月）　14:00開演（13:20開場）　大ホール

Vol. 14　ときめきが伝統に新風を吹き込む
指揮：齋藤友香理
歌&ナビゲーター：ハンサム四兄弟
　バリトン：宮本益光、加耒 徹、近藤 圭、与那城 敬
ビゼー オペラ『カルメン』より 第1幕への前奏曲　ほか

齋藤友香理

宮本益光

加耒 徹

近藤 圭

与那城 敬　©Kei Uesugi

2021年 2月3日（水）　14:00開演（13:20開場）　大ホール

Vol. 15　クラシックの枠組みを超えた新感覚
指揮：横山 奏　ピアノ：角野隼斗　ナビゲーター：高橋克典
ガーシュウィン『ラプソディー・イン・ブルー』
スメタナ 連作交響詩『我が祖国』より「モルダウ」 ほか

横山 奏　©平舘平

角野隼斗

高橋克典

【チケット料金】
3公演セット券
S 14,400円　A 11,400円
1回券
S 5,500円　A 4,400円　B 3,300円
グループ割引
3名以上お申し込みでS席、A席10%オフ
（受付はサントリーホールチケットセンター電話および窓口）

日本フィルハーモニー交響楽団　©堀田力丸

※2020年3月18日（水）13：30開演「日本フィル&サントリーホール　とっておき アフタヌーンVol. 12」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、公演を6月1日（月）13：00開演 に延期させていただくこととなりました。
※最新の公演情報については、サントリーホールホームページをご覧ください。

サントリーホール情報誌
『Hibiki』

サントリーホールは1986年に東京初のコンサート専用ホールとして“世界一美しい響き”をコンセプトに誕生しました。これからもサントリーホールの響きを、より多くの方々にお届けしたい──そんな想いを込めて、情報誌『Hibiki』を発行しています。表紙の絵は、絵本作家・五味太郎氏による描き下ろしです。

＜表紙のことば＞

数年前からチェロという楽器をいたずらに弾いてみるようになり、コンサートの味わい方も変わりました。お、プロはこうやっているのか、さすがこの辺は違うな、など気分がわかるというか、ちょっとインサイドに入る楽しみ方。とくに室内楽のように距離が近いときは、アマチュアなりの厳しい目でチェックしたりワクッとしたり。こんなファンもいるということを……。

五味太郎

Questionnaire & Present

充実したHibikiをお届けしてゆくために、ぜひみなさまのご意見をお聞かせください。アンケートにお答えくださった方に、ブルーローズをモチーフにしたサントリーホールオリジナルグッズをプレゼントします。サントリーホールホームページ http://suntory.jp/HALL/ の応募フォームに、アンケートのお答え、お名前・ご住所等をご記入のうえ、ぜひご応募ください。

〆切は、5月28日（木）、当選者の発表は6月中旬のプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

応募フォームはこちらから

プレゼント

A ブルーローズ タオルセット（3名様）

「青いバラ」の刺繍が入ったフェイスタオルとハンドタオルのセットです。高品質タオルとして知られる“今治タオル”を使用しています。（色は選べません）

B ブルーローズ 一筆せんと チケットホルダー（5名様）

優雅な青紫の紙にバラの陰影があしらわれた一筆せんと、内側両端のポケットにチケットが収まるホルダーをセットで。

先行発売がご利用いただける「サントリーホール・メンバーズ・クラブ」、公演情報、チケットのご購入など詳細は、サントリーホールホームページをご覧いただくか、サントリーホールチケットセンターにお問い合わせください。最新の公演情報につきましてはホームページでご確認ください。

サントリーホールホームページへはこちらから

サントリーホールホームページ　http://suntory.jp/HALL/

サントリーホールチケットセンター　Tel. 0570-55-0017

（10:00～18:00）オペレーターが対応いたします（休館日・年末年始は休業）

※0570で始まるこの電話番号は、国際電話および一部のIP電話・プリペイド方式の携帯電話からはご利用できません。ご利用いただけない場合は、03-3584-4402へお電話ください。

【チケットセンター窓口】10:00～18:00 ※18時以降の公演がある場合は開演時刻まで営業／休館日・年末年始は休業

サントリーホール情報誌『Hibiki』Vol.11

2020年4月1日発行
発行責任者● 折井雅子
編集発行　● サントリーホール
〒107-8403
東京都港区赤坂1-13-1
TEL. 03-3505-1001（代表）

企画編集 ● サントリーホール／株式会社スケープス／　内海陽子
デザイン ● 中澤睦夫（SAKU CORPORATE DESIGN）ももはらるみこ（表紙）
表紙絵　● 五味太郎
印刷製本 ● 共同印刷

サントリーホールディングス株式会社は公益財団法人サントリー芸術財団のすべての活動を応援しています。